会議開催記録

会議名	第４回　森町学校のあり方検討会
日　時	平成２９年１１月１３日（月）１４：００～１５：４０
場　所	森町文化会館第１研修室
出席者	教育長　検討会委員２２名、事務局６名
議　事	１　開会 ２　あいさつ（会長） ３　協議事項 (1) アンケートの結果について (2) 地域懇談会における意見について (3) 学校再編に向けた検討について ４　その他（連絡事項） ５　閉会
議事要旨	

１　開会（事務局）

２　あいさつ（会長）

前回の学校のあり方検討会の後にアンケートを実施、回収し、集計をした。三倉、天方の両地区では地域懇談会を行った。今日はそれを基にして検討会としての方向性をきちんと出していく。保護者を中心とした方々の想いと、少し隔たりがあるように感じたが地域の方々の想いの両方を汲み取りながら、会議全体として森町にとっていい方向性を考えていくのが今日の会議になる。

３　協議事項

アンケートの結果の前に前回の会議開催記録の確認及び、一部発言者の確認。
今後外部に発信する際には名前の欄は空白にして匿名で公表する。
事務局での資料記録として発言者の確認を行いたい。

(1)　アンケートの結果について

事 務 局：資料の量が多くなった。配布について遅くなり申し訳ない。
アンケートの結果について説明

会　　長：問６について、質問内容を誤解して回答していると思われるところがあるということであるが、どのようなことなのか。

事 務 局：問６の理想的な１学年当たりの学級数と人数という問いで、１学級（20 人未満）が良いと回答している方が、問７の理由欄には、複数の学級があった方が良いからという内容の記述をしていたので、本来は、回答項目に２学級や３学級もあるが、１学級の人数は 20 人未満がいいということのみの判断で、１学級（20 人未満）を選んだと思われる。学年全体で何クラス何人がいいのかという問いの主旨と違ってしまった。

会　　長：今回のアンケートの主旨と異なる提案・意見というものを抜き出してまとめた。学校のあり方というものとは異なる主旨の提案・意見を一覧にしたが、この中に学校のあり方の主旨に沿うと思うものがあるか意見を頂きたい。

委員全員：意見なし。

会　　長：意見はないということでこれらの提案・意見はアンケートの結果からは削除するということで良いか。

委員全員：同意

(2) 地域懇談会における意見について

会　　長：協議事項の学校再編に向けた検討に入る前に、先日行った三倉地区・天方地区で地区の懇談会の内容を説明する。両方の地区の懇談会に出席して、現状を理解することができた。また、両地区の様子も異なっている。

天方地区については学校の児童が少なくなることに対してかなり不安が大きい。体育の授業が成立しないなどの意見があった。総じていえば、どうしても天方でなければということではなく、もう少し柔軟に今後の方向性を探っていきたいという意見が大勢を占めていた気がする。

事 務 局：会長から概略の説明があったが、天方地区の懇談会を 10/19（木）に行い、参加者は 14～15 名ほどだった。だいたいは地区代表の方、来年に入学児がいる保護者などいろんな条件の方が出席された。話し合いの内容については会長が説明した概略になるが、来年度に入学を控える保護者の人は若干不安感を持っていたり、町内に住む地区代表の方からは人数が少なくてドッチボールも出来ないのは話にならないなどの意見があった。また出席している方たちからは、実際に子育てをしている保護者の意見はどういうものがあるのか、とアンケートの内容について具体的に問われる方もいた。いずれにしても現状も課題も真摯に語り合って頂き、今後を考えなくてはならないということについては理解を頂いたと思う。

三倉地区の懇談会は 10/24（火）に行い、21～22 名の地区の方が参加した。保護者の方が１～２名参加していたと思う。中には自分が大きな地域で育ってきたが、三倉地区での子育てに関して自分の時とギャップがあり不安があるという方もいた。終わりがけにこのままでいいのかと会長に質問された方もいた。今までの三倉の歴史を知る人からは地域を大事にして欲しいという意見も多々あった。学区の編成について、少ないならば工夫して三倉地区の人数を増やせばいいのではないかという意見も出た。自分の子育てが三倉の風土にあっているとの声もある。地元の方と保護者の方の意見のメリットとデメリットの両方の話が出たが、地域を思う気持ちが少し強い地区であると感じた。

会　　長：三倉地区については子供が少なくなっているという危機感については共有できている。それの対応については、過去に学校の統廃合があった経験もあり、学校がなくなると過疎化が進むので統廃合をして良いのかという危機感を強く持つ方がいた。

三倉地区に思い入れを強く持つ人が多く、学校が無くなってしまうかもしれないという事に関して危機感を持っている。

委　　員：保護者の方と地元の方との意見が反比例している。

昔、泉陽中学校が統合された時があったが、その時は強引に統合が行われたと感じた。子供達にとって合併されたこと自体は良いが、通学やその他諸事情を考慮されておらず、苦労をした。これから統廃合を検討する際にはそういった事情を加味してほしい。

会　　長：懇談会やアンケートの結果について意見を出してほしい。今後、森町学校のあり方検討会としてどのように着地点を持っていくのかを決める。

委　　員：懇談会で出た意見には保護者として賛成しかねる意見もある。そういった意見を持つ人たちに保護者としての意見を理解して貰うにはどのようにしたらよいのか見当がつかない。

委　　員：なかなか本当の意見を言いづらい雰囲気がある。同じように意見を言いづらく、出席しなかった人もいると思う。

会　　長：私もそのような感じを受けた。意見を聴くには両方の立場にある人が率直に言えなければ話し合いの場にならない。両方の考えがなければいけない。地域の方の意見を聴く懇談会であり、私が主張する場ではないので、最後に付け加える程度ではあったが、あの形では話し合いが発展していくことは難しいと感じた。同時に統廃合に反対している方達の動機を考えると純粋に地域を大切にしている気持ちがある。

今まで育ってきた学校という地域がなくなるのは、三倉にとっても森にとってもよくないだろうという気持ちがあり、何とかして残したいのだと思う。本当に自分勝

手な人であれば、地域のためにこれほどは出来ない。アンケートの結果などから、保護者としては複数学級があり、一定数の人数があるのが望ましいというのは間違いない。今学校の統廃合という危機感を募らせている人たちも希望が持てるような学校の形を考えなければならない。理想を言えばこういう人達が、次の学校の形になっても快く協力してくれるような形を考える必要がある。単に学校というのは無くなる方を一緒にするか残すかの２つの選択肢だけでなく、今の学校の形にはいろいろな種類があるのでそういったことも検討したいと思っている。現状は非常に悩ましいところである。

委　　員：学校がなくなると地域の核がなくなり、過疎化が進むので反対という意見は、昔の統合の時からある。自分もその意見には納得をしていたが、見方を変えると、例えば三倉に住んでいて複数学級ある森小学校や宮園小学校に通わせられる環境なら三倉に住んでいても良いが、三倉に住んでいるので三倉小学校にしか通わせられないから近隣市町に出ていく場合もあるのではないかと考える事がある。

委　　員：事実としてそういった事がある。

委　　員：身近にもその様な人がいた。入園・入学に合わせて他市町に移った人がいる。若い夫婦で本当は地元に帰りたいがこの環境では子育てが出来ないという理由で。

委　　員：同級生が結婚をして子供を産んだ。その同級生の夫の実家が浜松のため、そちらで仕事をしていたが、森町に移り住むことになった。ただ、泉陽中学区に家を建てることにためらいを感じていた。同級生の実家は泉陽中学校区なので、森中学校区に家を建てて、一応両親の面倒も見られる範囲に住むことになった。天方小・泉陽中学校を経て育った経験があり苦労をした。その苦労を子供にさせたくないので森小学校を選んだと聞いた。

会　　長：例えば、バスに乗る必要があるが規模の大きい学校に通うことができるというのと、複式の学級しかないが近くの学校に通えるとなった時に、バスの通学を選択する保護者の方が多いのか？

委　　員：兄弟がいる、いないなどの家庭環境によって変わってくると思う。上の子が既に身近な学校に通っている場合に、下の子をバスで通学させるかどうかは悩ましい。

委　　員：少人数の中でもすばらしい教育をされているが、アンケートの結果を見て気になる言葉があった。泉陽中学校区の意見で「学びきれていない」という言葉があった。先週、旭が丘中学校で飛躍祭があった。３クラスの学年があり、合唱コンクールを行う。それを聞いていて、学年が上がるにつれて技術や意欲などが非常に高まっている。各クラスの子供達の学級という集団意識を非常に感じた。泉陽中学校にもそういったものはあると思うが、相手があってそういった集団への貢献や喜びの意識を強く感じると思う。そのような充実感というのはなかなか小規模校では味わえないと強く感じた。アンケートにあった「学びきれていない」というのはもしかしたらそのようなことを指しているのかもしれないと自分は感じた。小規模校の良さを主張する人達が、旭が丘中学校飛躍祭を見た時にどう感じるのかと思う。

委　　員：今の委員の話は小規模校のデメリットである。小規模校の良さというものもあるが、アンケートを見るとそれなりの人数、クラス替えがある人数などが望まれていると思う。今後の統廃合を考えた時に、子供が成人しているが地域愛が強い人達の気持ちを汲み取る必要がある。統廃合の際に集団で転校するという意識ではなく、新しい学校、新しい校歌など全てが新しい内容になる中で、閉校した学校の大切にしてきた教育活動を取り入れていく。そういった所が地域を大切に思う方に理解して頂く落としどころになるのではないかと思う。

会　　長：私も同じような考え方である。他市町での学校の統廃合の例であるが、統合する全ての学校を一度廃校し、同じ名前で統合する学校を新設した。行政の手続きとして

は吸収合併でもよいが、全部の地域を背負っているという意識で新たに学校を始める手続きを取った。いずれこのままの形で森町の学校を維持することは困難なので、何らかの措置は取らなければならない。その時でも少ない方を入れてやるという意識ではなく、新しい学校を作るという意識が必要。新学習指導要領が平成32年度から始まると学校は今に加えて忙しくなる。実際にできる措置のひとつの案として、例えば、土曜教室や夏休み教室など一部の科目については、いずれ統廃合される学校にて町中から全部集まって合同で行うこともできる。そういったことも一つの視野に入れて考えてもいいかもしれない。同時に地域を支えるための工夫を盛り込んでいくというのはきちんと考えなければならない。

(3) 学校再編に向けた検討について

会　　長：この検討会はあと２回くらいで一旦報告書をまとめるという形になる。その際の原案については私と事務局とで案を練り、後日委員に送る予定である。その叩き台として、全体として見た時に児童生徒の減少については、学校規模が小さければ小さいほど課題は大きいと感じる保護者が多くなるし、現在と将来を比べれば将来の方が課題は大きくなると感じる保護者が多い。したがって、児童生徒の減少というのは深刻に受け止める必要がある。その上で長期的には、小学校では２学級以上が望ましく、中学校では３学級以上が望ましいというところに大きなピークがある。アンケートの結果を見ると２学級と１学級を足すとおおよそ2/3になるが、１学級が20人未満になると厳しいという状態である。中学校でも同じ様な状態にある。真剣に考えなければならないという線引きは１学級20人未満になる。私はこのように認識をしているが委員の方はどうか。もう少し人数を上げた方が良いか下げた方が良いか。

委　　員：１学級20人未満では寂しく感じる。部活動などを考えるとある程度の人数は必要。

委　　員：同じ意見である。旭が丘中学校の飛躍祭は素晴らしかった。体育祭もクラスで競い合い成長していくのが良かった。宮園小学校が今は２学級あるが、子供達にもいろいろな事があり、クラス替えはあった方が良いと感じた。旭が丘中学校は飯田小学校と宮園小学校が一緒になることで、いろいろな友達と知り合えることがとても良いことに思う。

委　　員：小学校は２学級、中学校は３学級あるのがいいと思う。以前、学校訪問で森中学校に行った時に森中学校は、森幼稚園・森小学校とずっと同じ生徒のまま学年が上がる。結束力が強いと思うが、旭が丘中学校と比べると、新しい人間関係が入ることがないので中学校から別の学校の生徒と一緒になるという方が良く感じる。森中学校は閉鎖的に感じた。

会　　長：ずっと同じ人間関係だと、一度こじれた時に逃げ場がないというのはよく聞く話である。

委　　員：子供が中学生の時に先生から競わないから駄目だと言われたことがある。順序が決まっているので競わないというのは感じる。

会　　長：学校を直接一緒にすることは難しいが、報告書の中の文言として小規模化が進行した場合の方策についてという回答にもあるが、交流学習や合同授業等を積極的に行って欲しいという意見も多い。合同の行事や活動を増やして、小規模の学校だけではなく、他校との交流に関わる活動を積極的に模索するという記載を入れるのはどうか。

委　　員：この話し合いがどのくらいの先に具体化してくるかによって変わる。例えば平成41年に森中学校と泉陽中学校を統合しても２学級の生徒数しかいない。３学級が良いとなると現状で満たす統合を考えるのか、先のことを考えて統合するのか。

会　　長：私自身にも明確な考え方はないが、複数の考え方ができる。町の規模からすると１

小学校１中学校でもおかしくはない。しかし、そうなると小学校から中学校へは全員が持ち上がりになる。それが良いかどうかを検討する必要もあるので、少し複雑である。一つの町でも複数の学校があった方が比較検討ができる。１つにしてしまうとそれが出来なくなってしまう。他にも校舎の耐用年数や行政の財政規模などの様々な要因が密接に関わってくる。今の段階では具体的な案は出せない。しかし、無視していい問題ではない。複数案を出して、この形であればいつまでに案を出す、別の形であればすぐに行動するなど、具体案を来年度以降に検討する。この委員会ではとにかく課題を明確にして、方向性としてこのぐらいの環境を確保しなければならないということを明確にする。それをもって、地域の方と膝を交えて話し合いをして一定の方向にもっていくという形になる。

委　　員：先ほど話に出た交流について、狭い人間関係などの解消を目的として交流を行おうとするとかなりの回数が必要になる。今の教育現場でそれだけの効果のある回数の交流を行うのは厳しい。先日、飯田小学校と三倉小学校で１回の交流があったが、事前の準備などが非常に大変だった。

会　　長：これからの学校のあり方を考えていった時に、今の時間割の中に全て押さえるのは難しい。一部のものは地域の方が中心となって学校の活動を成り立たせていくと思う。教育を学校の中でやるのか外でやるのかというのは保護者からしたら重要ではなく、子供が何をきちんと経験して教育されているのかが重要である。そうした形で地域の方との交流を広げていく。この方向性を報告書の中で書いていく。学校の負担増には非常に注意していく。どこの学校も手が足りない状況である。

委　　員：私たちは今後も森町に住み続けるので 10 年後、20 年後の森町を考えなければならない。それをベースとして森町の総合計画にも沿っていくのならば３年サイクルで幼稚園・小学校・中学校を考えていくのだと思う。長い期間で児童数や町の財政状況などを考えると中学校は１つにしても良いと思う。ひとつにまとまることで考えも変わってくるかもしれない。

会　　長：長期的には今回の検討会で終わりではなく、長い期間で考えなくてはならない。報告書にはこういったことも書いていく。ただ、あまり具体的にどことどこが統合するなどの話が独り歩きしないように丁寧に考えていく。学校が無くなるということは、一緒になる相手先はいいかもしれないが、無くなった跡地についてもちゃんと考えなければならない。

委　　員：中学校については１校でいいと思う。他の町村では、ほとんどの所が１中学校になっている。規模が大きくなるので人数が多く、部活動も強かったりする。地域的にも町を挙げて応援するようになっていくので、全体が衰退するようには思えない。統廃合した時に校舎がどう活用されるのかということも、長く住んでいる人ほどそう思っていると考えている。残った校舎をどうやって活用するかということについてはフリースクールや夜間授業などの活動をボランティアや町で行うなどをするのはどうか。活動の目的があって三倉や天方に行くという理由があれば批判は出にくいと思う。そういった活動が行えれば町自体は衰退しないのではないか。

会　　長：今の様な意見がたくさん出てくることが重要。統合に関しても施設面で問題がなければ、残る校舎を活用することが出来るのが理想。いくつかの案を考える中で最適なものに落とし込むのが来年度以降行っていく。検討会としては方向性を次回ぐらいまでに固めて、最終回までに確定する。

委　　員：先日、森町全体の人口減少への意見交換会に出席した。大きい企業の誘致や、山間部に住宅地を作るなどの意見が出た。実際にどういった動きになるか分からないが、町としての人口減少に対する動きがあれば、現状の児童生徒の人口の推移が変わってくるのではないか。町の施策とも連動して考えていく必要があると思う。

会　　長：町の施策との連動は非常に重要である。この学校のあり方検討委員会は教育委員会の下に設けられているが、町長部局との連携というのは実際の動きとして必要なものになる。共同して検討を行うというのは報告書にも入れておく。足並みが揃わないのはいけない。

委　　員：人口が爆発的に増える事はないとは思う。

会　　長：細かい手立てを重ねていくのは重要。ただ合併するだけしかできないのと、今ある資源を生かすのでは全く異なる。森町は小さいながら食物を特産とする豊かさがあり、文化施設も揃っており、長期的には移住者の選択肢としては魅力のある町であることは間違いない。特に教育というのは移住を考える人にとっては重要な要素である。教育がいい加減だと他の要素が良くても移住は難しい。なので教育で特色作りをしながら、町の施策と連動して、人が住みやすい町にしていくことを考えていく方向性を見出す。

委　　員：出身地の高校が統廃合をしていた。廃校になった跡地に新しく公立の中学校が開校していた。学区外からも受け入れる様な形で運営していると聞いた。

会　　長：小規模特任校であれば同じ町内で他学区から受け入れる事は可能。しかし、住民票を動かさず、他市町村から生徒を受け入れるのは現状の制度では難しい。

委　　員：アンケートの中の支援学級の開設とあるが、どういう内容なのか。

会　　長：特別支援学級というのは通常の学校内に開設されており、支援が必要な子が通い、一部の授業だけ他の通常学級の子供と一緒に受け、一部の支援が必要な授業は特別支援学級で受ける。特別支援学校は支援が必要な子供だけが通う学校である。

委　　員：豊岡東小学校と豊岡北小学校の合併について、合併前から片方の学校に通っていたと聞いたが。

会　　長：豊岡東小学校が小規模特任校であり、学区外からも豊岡東小学校に通うことが可能だった。しかしそれほど児童数が増えなかったので、最終的に合併となった。

委　　員：小規模特任校なので磐田市内であればどこからでも豊岡東小学校に通うことができた。送迎については保護者の責任になる。結果的には児童数はあまり増えなかった。

会　　長：合併前に一部合同授業は行っていた。また豊岡学区は小中一貫教育に相当に力を入れている。

会　　長：もし報告書に記載して欲しい内容があれば意見をお願いしたい。今回の検討会の内容を組み込む形で報告書を作る。報告書にはアンケートの内容を森町内の保護者の大多数の考え方として載せる。今回の検討会で出た方向性で具体案を検討する。同時に地域の活性化も視野に入れつつ、来年度以降に具体案を検討することが望ましい。

4　その他（連絡事項）

事 務 局：次回開催日は平成30年1月24日水曜日14時から開催予定。　その他意見があれば事務局まで連絡をお願いしたい。

5　閉会

事 務 局：以上をもって、森町第４回学校のあり方検討会を閉会する。

以上